



熊本 本地震に対する当院の活動 ②

～物資班の活動～

記 企画課契約係長 寺坂 悠

地震発生後、国立病院機構中国四国グループより災害備蓄食料を有している病院に対し、災害備蓄食料を福岡県の国立病院機構大牟田病院へ運搬するよう指示があり、当院の物資班も運搬の準備にかかりました。

しかし、運送業者は手配することができず、翌4月17日にトラックを2台レンタルし、当院事務職員6名で大牟田病院まで運搬することになりました。

当院にはミネラルウォーター7,512本、マジックライス4,700個など、延べ850人分の3日相当の災害備蓄食料を保有していました。

4月17日は8時30分に病院に集合し、トラックへの積み込み作業を開始しました。災害備蓄食料は段ボールで約670箱あり、大変な作業となりましたが、積み込み作業を見かけた医師を含め、多くの職員の方に手伝っていただきました。

10時過ぎには積み込み作業が完了し、約300km先の大牟田病院へ向け、出発しました。出発早々、トラック2台のうち1台が故障し、別のトラックに積み込み直すというアクシデントが発生しましたが、その後は大きな問題もありませんでした。道中では、消防・救急、自衛隊、電力会社など、様々な職業の方々の支援車両が、同じように九州を目指して向かっていました。

当院を出発して約5時間、目的地である大牟田病院へ無事、到着することができました。その後、大牟田病院の職員の方と約2時間かけて当院から運搬した全ての物資の積み下ろし作業を行い、帰途につきました。

物資を運搬しただけの小さなことでしたが、今回の地震により被害を受けた方々へのささやかな支援ができたと思います。



この度の地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さま、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。熊本県では、いまだ余震が続いておりますが、1日も早い復興を願っております。



【当院の災害
備蓄食料倉庫】

